

## 市町村との意見交換会について

日時：平成28年12月22日（木）

午後 1 時00分～午後 3 時00分

場所：大阪府立国際会議場 10階 1001-2会議室

### 開会 午後 1 時00分

○事務局 定刻が参りましたので、少し遅れるという連絡を受けている方もいらっしゃるかもしれませんが、始めさせていただきたいと存じます。

私は本日の進行役を務めさせていただきます関西広域連合本部事務局長の中塚と申します。よろしくお願いいたします。

それでは開会に当たりまして、井戸連合長よりご挨拶を申し上げます。

○広域連合長（井戸敏三） 本日は、年末の大変ご多忙中の中、市町村長の皆さんにはこのような連合と市町村との意見交換会にご出席いただきましてありがとうございます。この交換会は既に7月にも開催をさせていただき、活発な意見交換をさせていただきました。意思疎通と相互理解を大変深めることができたと思っております。

関西広域連合、今年で発足してから丸6年を経過いたしました。関西広域連合は、当初、国出先機関の丸ごと移管など、国との関係でかなり華々しく戦っていましたが、国の状況も変わりまして、国との関係では苦心をしております。

一方で、防災をはじめとする七つの広域事務の取組につきましては、関西全体としての機能を発揮しつつあるとして理解を深めていただいているのではないかと思っております。特に、今年は4月に熊本地震があり、11月には鳥取地震がございました。関西広域連合としていち早く現地に赴き、あわせて一番遅くまで現地に残って対策を、支援を行い続けてまいりました。そのような活躍は理解をいただいているのではないかと思います。

また、ドクターヘリですが、当初は、5台でございましたけれども、鳥取県にも新たに導入されることになり、7台で関西全体を覆うことになります。

出先機関は難しい状況が続いておりますが、本丸の文化庁、消費者庁、あるいは統計局が関西に全部または一部の機能を移していただくという基本方向が定まり、その動きに関西広域連合のメンバーがみんな一致して支援していくことにしております。

そのような意味で、やはり関西広域連合が発足して、一つ一つと言われた関西が、一つになって機能することにより力を発揮してきているのではないか、このように自称しているところでございます。

また、今日ご説明いたします新しいこれからの関西広域連合のいわば羅針盤となります広域計画、関西の創生戦略、そして来年度の予算につきましてご説明をさせていただきますので、関西広域連合の目指す方向なり役割、あるいは果たすべき機能についてご理解をいただきましたら幸いです。

なお、2021年にはワールドマスターズの第10回の大会を関西で共同開催させていただきます。共同開催の代表的な役割を関西広域連合が支援させていただいており、10月の末に開催種目と開催地を決めさせていただき、これから準備が本格化していくわけでございます。もう4年半先でございますので、そのような意味ではぜひ市長会、町村会の皆様全体としてもご支援を頂戴できれば幸いです。

それから、今回のこの会は、相互理解を深めていくための会合ですので、忌憚のないご意見を頂戴できればありがたいと思っています。特に同じ関西という地域で関西の府県民の幸せを願って対応しているもの同士でありますので、そのような見地から建設的な意見交換にさせていただければと願っております。どうぞよろしく私のほうから冒頭お願いをさせていただきます。

#### ○各担当委員による説明（資料説明）

- ・井戸連合長：広域防災、広域スポーツ振興、資格試験・免許、政策の企画調整等、  
関西創生戦略（改訂版 中間案）
- ・山田委員：広域観光・文化振興

- ・植田副委員：広域産業振興
- ・仁坂副連合長：広域産業振興（農林水産）、広域職員研修
- ・飯泉委員：広域医療
- ・三日月委員：広域環境保全

○事務局　　広域観光文化スポーツのうちジオパークの推進につきましては、担当の平井知事が到着後にご説明させていただくことといたしまして、ただいまから意見交換に入らせていただきたいと思います。今、説明させていただきました案件に関する  
こと、及び、それ以外でももちろん結構でございますので、ご意見、ご質問等ございましたらよろしくお願いたします。

私のほうから特に指名はいたしませんので、どなたからでもご発言いただければと思います。

○忠岡町長（和田吉衛）　失礼いたします。大阪の忠岡町の町長でございます。ただいまの説明の中で関西文化の魅力発信について私の思いを述べさせていただきますと、方言を活用した関西のアピール、活性化について言いたいなと思います。私たちの関西地域は古くから我が国の中心であり続け、豊かな自然環境、歴史文化や産業に至るまでの重層的有形・無形の文化資源が集まっているところと認識しており、特に住民の生活の中に多様な文化が深く浸透しているということが私たちの関西の特徴だと考えております。そういった関西の重厚な歴史と多様性をアピールする切り口として方言という切り口はどうかと思います。

ちょっと手前勝手なことですが、私の地域、泉州9市4町で、先日、泉州弁のトークショーやパネルディスカッションを開催したところでございます。竹山市長にも出席をいただき、皆様もご承知のように、のぼうの城、あるいは村上海賊の娘の著者であります和田竜さんや、NHKで朝ドラのカーネーションで方言を指導した女優の林英世さんなどもお越しいただいて、催しをしたわけですが、会場にはたくさんの方が

集まっていたかきまして、後で行った質問もどんどん出てくるというありがたい盛り上がりがありました。これは地域の言葉ですし、そこから気楽さ、生活への浸透度など新しい発見がたくさんあり、住民の皆さんからも、自分の言葉や生まれた町への興味、愛着が増したという声が多く、会場もにぎやかに推移したわけですが、ここにおられる皆さん方ご承知のように、私たちの地域には京言葉、あるいは近江弁、あるいは播州弁とか紀州弁とか、各地で独特な魅力的な方言があると思います。こういったことがつながっていく、こういうことがつながりを増すのではないかなと思って少ししゃべらせていただいています、非常に関西独特な文化がここにあるのではないかなと思っております。

そこで、例えば関西方言サミットというような関西文化の発信を行うのが、関西らしいおもしろさがあるのではないかなという思いでしゃべらせていただきました。唐突な提案で大変申しわけないのですが、切り口として関西の文化魅力の発信をご検討いただいたらありがたいと思えました。竹山委員さんには失礼しました。申しわけございませんが、私の思いを言いました。少しそういうことも頭の中へ入れていただいたらありがたいなど。失礼しました。

○事務局　　ありがとうございました。

竹山市長。

○委員（竹山修身）　九州宮崎のある地域の言葉がフランス語に似てるといって、テレビで、取り上げられていました。非常に観光客の皆さんが来ているということも聞いております。和田忠岡町長さんから方言を活用して関西をアピールしたらどうかというのも、非常におもしろい提案だと思っています。

泉州弁のシンポジウムをしましたが、堺の言葉と岸和田以南の言葉がちょっと違いまして、同じ泉州弁でも岸和田以南は和歌山に近い言葉です。そして、なぜこれを行ったかといいますと、関空に1,000万人以上の外国の方が来ていただいているのに、泉州を素通りされている。大阪や京都や、そしてゴールデンルートに行っている。そ

して、泉州はやはりリピーターをしっかりとつかまえんとあかんのと違うかということで、泉州の魅力をもっともっと発信しようということで、和田竜さんと呼んで、泉州侍、そして瀬戸内海の海賊の娘さん、そういったものを題材にしながら泉州をアピールしたんですけど、今、おもしろい現象が起こっているのは、泉州の9市4町のそれぞれの地域の言葉をもっと大事にしようということ、このシンポジウムが終わってから、いろいろな集まりでやっています。そういう意味で、関西を大事にして、関西のプライドをもっと高めていくためには、関西の多様な言葉を世界に売り込んでも、和田さんが言われているように、おもしろいと思いますので、考えていただいたらいいと思います。私も大賛成です。

○広域連合長（井戸敏三） 大変おもしろい企画だと思うのですが、関西弁サミットをやって、相互に意思疎通ができますかがちょっと心配だなという感じがいたしました。訳をつけないといけないのではないかと。しかし、それでも存在感を示すというのは重要な事柄ではないかと思えます。

中国が14億の民を一つの国として統一できているのは何かというと、プートンファ、北京語を強制的に小学校から学ばせている。北京語以外は公用語にしない。ですから、聞いてきたばかりですけど、純粋な広東語をしゃべる人が大分減ってきたというような状況で、片方で国としての統一は実現しているけれども、地域性が少しずつ欠けてきている。

昔、我々の学生時代なんかは、関西のやつだけは関西弁のイントネーション抜けない、ほかのところはすぐに標準語に染まると言われていましたが、最近はどうも関西のやからも標準語に染まると言われていますので、もう一度、関西の復権をしなければいけないと言っている我々ですから、非常におもしろい提案だと受けとめさせていただきました。ただ、最初の疑問だけ、通じ合えるかなというところだけ、きっちり準備しなければいけないのではないかと思いました。失礼しました。

○委員（飯泉嘉門） 実は、私からも一言。ちょうどここで和田町長さんが切られ

ましたので、我々徳島阿波弁なんですけど、女性の言葉はほとんどが京都弁に近いです。男性はどちらかというと大阪弁とそれから神戸弁に実は近いという特色があります。それともう一つ、今、和田町長さんと井戸連合長とが共通のことを言われたんです。私と全く違う考えが一つ。連合長は標準語と言いました。それから和田町長さんは関西弁のことを方言と。私は、関西弁は日本の標準語だと思ってます。言われたとおりですよ。何百年もずっと首都は関西にあったんですから。たかだか、今、東京弁なんていうのは300年だけです。だから私がいつも言うのは、NHKもおかしいと。標準語だと。アナウンサーは標準語をしゃべれと。おかしいといひ続けたんです、私、郵政省のときも。許認可持ってますから、それは言いわけじゃないんだけど。そして、最近の有働アナウンサーを見てもおわかりのように、「ちゃうちやう」とか、関西弁が普通に出てくるようになったんです。いや、何が標準語だ。標準語は関西弁だと。東京に行ったときに、みんな、30分いたら全部関西弁にしましたよ。だからそういうところで、そこだけはぜひ間違えないでいただきたい。標準語は関西弁だと。あれは東京弁ということです。

○事務局　　ありがとうございました。先ほど、平井知事が到着されましたので、ジオパークの説明をお聞きください。

○平井委員による説明（資料説明）：広域観光・文化振興（ジオパーク推進）

○委員（平井伸治）　　関西弁のお話がありますが、関西弁が標準語で東京弁は標準語でないと。実は私、47人知事がいる中で、唯一、秋葉原で生まれ育ったという東京人ですが、秋葉系でございます。東京の名誉のために言いますが、標準語は東京弁ではありません。あれは長州がつくった言葉でございます、東京弁の江戸弁というのはもっと威勢がいいわけです、「べらんめえ」でございますから。ちなみに関西弁の少し派生かもしれませんが、鳥取も鳥取独特の言葉がございます。こ

の間、さんまさんの番組でちょっと出させていただいたときに、言葉の話になったわけではありますが、「あほ」と言われて怒る人と、「ばか」と言われて怒る人と、東と西で違いがあるというような話なんです。鳥取では「だらず」と言わなければわからないわけでごさいます、そのような言葉の違いというものもあると思います。ぜひいい話でごさいますので、もしよろしければ、来年度予算は関西弁で書いてもらってもいいんじゃないかなと思います。

○事務局　ありがとうございます。それでは、方言の話はこのあたりにさせていただきます。ほかに、市長、町長の皆さん、どうぞ。

○那賀町長（坂口博文）　那賀町長の坂口といいます。私からは、広域観光・文化・スポーツ振興についてお願いを二、三点させていただきたいと思っております。

那賀町につきましては、7月の会議の席でもお話させていただいたかと思うのですが、徳島県の南部に位置しまして、695平方キロという広大な町であります。そして、県下一長い那賀川がございまして、その町の上流には源流があります。中流域までちょうどこの那賀町が占めているわけですが、特に中流域には驚敷ラインという川下りに絶好のポイントになっているところがございます。

そこで、平成5年の第48回国体でカヌー競技の会場として、そしてまた、那賀町にあります那賀高校のカヌー部の卒業生が2008年の北京オリンピック大会も出場いたしました。そういった経緯があることから思うのですが、先ほど井戸連合長さんからお話がありました、去る10月26日に関西ワールドマスターズゲームズ2021年の競技種目とか会場が決定をされた中で、那賀川の驚敷ラインでカヌー競技が実施されるということが決まったと聞いております。

人口が減少する中で、那賀町でも地方創生に懸命に取り組んでいるところでごさいます、このワールドマスターズゲームズの開催が同町でカヌー競技の会場となることによりまして、本当に町の活性化の起爆剤になると喜んでいるところでごさいます、どちらにせよ、国際大会の開催経験が我々の町も乏しいというところなので、ぜ

ひ大会の組織委員会をはじめ、関西広域連合、構成府県市の皆さんにご指導をいただきたいと思っております。

また、那賀町には徳島の伝統芸能阿波人形浄瑠璃が演じられる農村舞台が多く残されているなど、伝統文化も息づいておりますし、また、全国的にも人気のある阿波ブランドの木頭ゆずの産地ということもございまして、郷土の味覚を味わうこともできますし、いろいろな面で那賀町のこういった文化にも携わっていただけるかと思えます。ぜひ関西ワールドマスターズゲームズ2021の開催を契機に、国内の自然、文化を堪能していただけたらと思っております。

一方で、そういった中で町村の情報発信力というのは限界がございます。関西ブランドとして世界に向けて関西の各地域の魅力を強力に発信していただくことに期待をしておりますし、同時に、観光客の偏在ということも問題となっていることから、ゴールデンルートに代表されるメジャーな観光地以外にも外国人観光客の視線が注がれるような工夫をお願いしたいと思っております。

さらに、大会参加者だけでなく、その家族や競技関係者の訪れ、そして競技開催地だけでなく、関西各地を周遊していただき、関西のおもてなしに感動していただき、リピーターになってもらう仕組みづくりも重要でないかと思えます。

今後、大会組織委員会、そして市町村、府県、関西広域連合のそれぞれの役割を果たすとともに、しっかりと連携して受入体制の整備を加速していく必要があると考えていますが、その中で運営スタッフや外国語の通訳者、宿泊地に交通手段をどう確保するかなど、さまざまな課題が出てくると思っております。

こうした課題を含めて、先ほどもお話ありましたが、外国人が増えているというお話がありましたとおり、四国にも四国八十八ヶ所の、那賀町にも21番札所の太龍寺のロープウエーの登り口に当たるということから、最近、本当に外国の方がどんどんと増えているという状況でもございますし、四国八十八ヶ所を世界遺産の登録ということも準備を進めておりますので、四国圏域、そして関西圏域の関係者が一体に連携す

ることで、より効果的な取組が可能になるのではないかと考えておりますので、これからもどうか関西広域連合として各自治体とともにしっかりと取り組んでいただければと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○事務局　　ありがとうございました。

○広域連合長（井戸敏三）　　それでは、私から状況も含めてご説明したいと思ひます。

私、昨日、香港と広東省広州から帰ってきたばかりですが、香港の日本に対するインバウンドのお客さんが180万人を超えるだろうといわれています。180万人を超えますと、香港の人口が約740万人で、4人に1人は毎年日本に来るといふような状況になるようですから、5年後になるとどうなっているのか、2人に1人ぐらい来るのかもしれませんが、それほど日本に対する関心が深い状況がアジア各地で生まれつつある。それでヨーロッパも、例えば城崎なんかを見ますと、今、27年度で3万1,000人の方々が城崎温泉へやってくる、こんな状況です。

こういう流れは衰えないだろうと思ひます。そういう中で開かれるのがワールドマスターズゲームズ2021、東京オリンピック・パラリンピック、2019年のラグビーワールドカップですので、このようなスポーツを自身の参加や観賞という面もありますが、スポーツを通じたツーリズムというのをしっかりと位置付けていかないといけないのではないかと、このように考えています。また、それをしないと受入れがきちんとできるかどうかということになっていくのではないかと。

その中で、リピーターは、どうも見るだけでは日本を知ったことにならない、観光したことにならないといふことで、日本文化の真髄に触れたい、日本人の生活を味わいたいという志向が物すごく強くなっているそうです。そのように考えていきますと、単に名勝があればいい、それを結びつければいいといふことだけではなくて、おもてなしと一言で言ったら簡単ですけども、衣食住の全部通じておもてなしで結びつけていかないと満足していただけない、こういう時代を迎えそうです。

特にワールドマスターズゲームズで見える方々というのは、家族連れと、コーチを連れて家族連れで見えるという方々が多いと聞いておりますので、今、坂口町長さんをご指摘されたような、各視点において、どのような対応をすることが受入体制を整備していったことにつながるのかということをやほど計画的に準備していかないといけないのではないか、このように思っています。

幸い、カヌーを引き受けていただき、ありがとうございます。私は兵庫県内のある町から怒られましたけども、それはそれとして、私は当該町にそれだけの方々が見えるとしたときに、どういうおもてなしをするのかという観点とあわせて、スポーツのカヌーならカヌーをやられる方が、前後、どのような行動をされるのかということを見定めた上で、適切な案内情報、情報提供をしていかないといけないのではないか。それはご指摘いただいた文化、歴史、あるいは食もあるかもしれませんし、他の競技の視察や、2種目以上参加してもいいわけですから、他の競技への参加とかというような観点で、受入準備計画をつくった上で、それに即した対応ができるように準備をしていく必要があると思っています。

そのような意味で、宿泊施設、文化施設、観光名勝やルートというかなりの情報を盛り込んだ、それぞれの種目地、開催地ごとにホームページを作成していかなくてはならないのではないかと思っておりますし、それからそのような情報提供に合わせてどのような広域的な連携が図られ得るのかという、そういう意味での支援の仕組みも紹介していかなければいけないのではないか。それとあわせておもてなしの体制づくりをきちっとしていくということが大事なんではないか、このように思っています。

実際、開催地が決まったばかりですので、今後、開催地と一緒にしながら、私たち関西広域連合も支援してまいります。組織委員会でもご相談をしたり、あるいはご協力をいただいていくということになっていくと思いますので、改めて私のほうからも、ご協力をお願いさせていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局　　どうぞ。

○若桜町長（小林昌司）　　失礼いたします。鳥取県の町村会長をしております小林と申します。町はちょうど兵庫県の県境のところにありまして、今日は24ページですけども、鳥取県にも平成29年度はドクターヘリが配属されるということで、私は非常にうれしく思っておりますし、鳥取県民も喜ぶと思っております、何かあっても、とにかく近くて、すぐにやっぱり病院に搬送というようなことができるわけございまして、まずありがたく思っているところです。

実は、25ページに自然共生型社会づくりの推進ということでございますけども、ご存じのように、結構ニホンジカが増えてきています。あるいは、今年はツキノワグマが全国的にも増えてきているのですけれども、一つは、ニホンジカも私のところでは、今、1,500頭の解体処理をして、内臓は全部ドッグフードに、皮もほとんどなめしますと、ほとんど捨てるところがなくて、環境問題で非常によくなりました。以前は、八頭町も若桜町も、共同の施設ですけども、たくさん捕りましたら、そこらじゅうに放ってしまって、春になったら非常に環境に悪いということでしたが、年間1,500頭が処理できますから、非常によくなったと思っております、そういうこともこれからはやっぱりしっかりとやっていくべきかなと。肉もしっかり売れるようございませう。そういうことをやってほしいなと思っておりますし、やっぱり皆さんの意見をいろいろ聞くと、山にえさがないので、棲み分けするということになってくれば、結構、鹿やイノシシ、あるいは熊のえさ場をこしらえるというようなこと、これも林野庁と一緒にありまして、そういうことをどんどんやっていくべきではないだろうかということも私たちが言っているところで、また広域連合でもそういうようなことを林野庁にもまたお願いをしたいと思っております。

最後、一つ広域インフラのあり方の問題でございますけども、実は12月14日には与党のプロジェクトチームが北陸新幹線の敦賀・大阪間の整備検討委員会の中間報告が出されたと思っております、私たちは舞鶴・京都というところを密かに期待をし

ていましたが、これはどうしようもない問題ですけれども、しかしながら、この関西圏を考えた場合に、長い目で見まして、山陰新幹線とか四国の新幹線とか、そういうものが非常に関西全体の将来から考えて必要だということを思っているところで、書いてありますけれども、長期的な立場できちんと位置付けをして、一つ頑張っていたきたいと。京都の知事さんもおられますけれども、一つそういう面でもよろしくお願ひしたいと思っておりますので、私たちもしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

○事務局　　ありがとうございました。

○委員（三日月大造）　　北陸新幹線のことではなくて、ニホンジカのことをお話したいと思います。

　　ありがとうございます。おっしゃったとおり、ジビエも含めて、捕った鹿をどう活用するのかという視点も大事だと思いますし、それを一つの町や一つの山だけでやるのではなくて、広域的にやるとスケールメリットも出るということですので、我々も若桜町さんをはじめ、いろんな町や市でやられている取組もぜひ学ばせていただいて、連携できるように取り組みたいと思っておりますので、いろいろとご指導をよろしくお願ひいたします。

○副連合長（仁坂吉伸）　　北陸新幹線の関連のお話をちょっとさせていただきます。

　　私は広域インフラを担当してまして、そこで、コンセンサスがとれている話は何かということ、早くやってくれということです。それで、今のところ、ちょっとゆっくり着工しようかなというような情報がどこかにはまっていたりするわけです。これはいかんということで、コンセンサスをつくって、昨日、実は国交省と、茂木政調会長がこれのリーダーですから、そこへ行ってまいりました。そしたら、着工の時期の話からすると、今のところ、お金をまだつけてないので、このお金をつけないと、ほかのところからむしり取るということになるから、お金をつける努力をこれからやっていくということになるんで、決して平成43年度からに決めたとか、そんなことではあ

りませんからねとって、今後、頑張りますと言われてました。

もう一つは、何という名前か忘れましたが、新幹線の調査費がついておるんです。これが1.5億円ぐらい国交省についていたんですが、増額査定をされて2.8億円になったんです。この2.8億円の趣旨は何かというと、北陸新幹線をどうしたらいいかということについても使えるけれども、別途、次の新幹線のネットワークということにも使えますと。そういう意味では、四国新幹線、山陰新幹線ということも、名前は明示しないけども、例えば橋の新幹線というような、そんな研究開発を調査をするということはあるかもしれないねというような発言をしておられましたので、山陰新幹線もこれから大いに視野に入れて、四国もそうですけど、頑張っていっていいんじゃないかと思います。

○委員（山田啓二） 一言だけつけ加えさせていただくと、新幹線をつくるときに、何のためにつくるのかということが今非常に問題になっています。今は費用対効果（B/C）を出していますが、B/Cを今のやり方では、山陰新幹線は絶対できません。なぜなら、例えば北陸新幹線の場合、このB/Cというのは、北陸と大阪の間の人はどこに行くか、その人の数を出して、時間がどれだけ縮まるか、これだけで出しています。

本来、私たちが新幹線を望んでいるのは、その地域にもっと観光客が増えるんじゃないかとか、企業が来るんじゃないかとか、新たに住んでくれる人がいるんじゃないかという地域の経済効果を願っているからです。別に大阪から北陸に行く人の時間が短くなることを願って私どもは舞鶴に新幹線を呼んでいるのではないし、山陰新幹線の場合も、鳥取も島根もみんな自分の地域が元気になることを願って取り組んでいるわけです。

しかし、今のB/Cは違います。例えば北陸新幹線ですと、使っている人は大阪が3割以上います。京都は18%しかいません。今の費用対効果は、大阪の人が便利になるほど大きく出てくるのです。本当の面でこれを解消しないと、いつまでたっても太

平洋側におんぶにだっこしている日本になってしまう。我々は日本海側が独立して太平洋側と対等な立場で物が言える、経済を共有できる時代をつくっていかねばいけないという思いでこれから共闘していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

○委員（平井伸治） 一言つけ加えさせていただきたいと思っておりますが、その前に、今日は倉吉市の山崎副市長もお見えですけれども、鳥取県中部地震でこちらにお集まりの市町村長の皆様にも大変お世話になりましたことの御礼を申し上げたいと思っております。

昨日、山陰新幹線の議連会長の石破代議士とも一緒でおりましたけれども、いろんな角度で、今後、今日30ページに書いてあるように、山陰新幹線についても関西広域連合でも取り組んでいただきたいと思いますと思っております。

例えば単線で新幹線をつくるというアイデアがあれば、大分B/CのCが下がることにもなります。いろんな可能性、現実的には速達性のあるような軌道改良などもあるでしょう。そんなさまざまな観点を先ほど仁坂知事がおっしゃいましたけれども、昨日も国交省の政務官が言っていました、特別に新幹線の今後のあり方についての予算を組んだということですので、声を上げて、今後の長い長期的なビジョンの中に国全体でもすり込まれるように、今が潮どきではないかと思っております。

あと鹿、熊についてでありますけれども、小林町長の若桜でもけがされた方が熊でございました。鳥取県内だけでも4件、今シーズンはけがをされた方がいらっしゃいます。そんな意味で、こういう鳥獣対策、もう一度、保護管理計画のあり方も含めて地域でも見直していく必要があるだろうと思っております。

鹿については先進的な屠殺がございまして、ジビエの業界でも評価されるようになりました。鹿だけにしかと取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

○倉吉市副市長（山崎昌徳） ただいま平井知事からもありました、鳥取県倉吉市の副市長でございます。このたびの10月に発生いたしました鳥取県中部を震源といた

します最大震度6弱の地震につきまして、被災地を代表いたしまして一言お礼を申し上げます。

発生から2カ月が経ちまして、余震もようやく少なくなってきたところでございます。避難所の運営につきましても、昨日をもって閉鎖ということになりました。このたびの地震につきましては、屋根の瓦がずれ落ちるといような特徴を持った家屋の被害が多くありまして、罹災証明の早期の発行ということにかかって、調査に対して多くの人員が必要でありました。このことに対しまして、関西広域連合を通してたくさんの方の人員の派遣をいただきまして、この応援がありましたことにより、順調に進捗をいたしました。ありがたくお礼を申し上げます。

復旧、復興に向けまして長期戦になるだろうと思っておりますけれども、頑張りたいと思っております。どうもありがとうございました。

○事務局　　ありがとうございました。

どうぞ。

○南丹市長（佐々木稔納）　　失礼いたします。京都府の南丹市長の佐々木でございます。どうぞよろしく願いいたします。

ただいまお話がございましたように、インバウンド、大変増えております。私どものような、京都のちょうど真ん中ですが、今年の春に京都丹波高原国定公園という指定も受けましたことにより、海外からたくさんの方が、特に個人とかグループが多いです。関空でおりられるわけですが、観光パンフレットではなくて、ブログとかインターネット、そういうような情報によって行こうという形になりました。Wi-Fiで公共交通機関の時刻表を調べられて、私どもの町の市営バスまでその時刻表で来られるというパターンですが、実は、その中で交通系のカード、いわゆるICOCAとかを使われてということなのですが、実が私どもの町の半分まで、JRの半分まではICOCAが使えますが、それより向こうは使えないということで、大変トラブルがあります。その観光客の方も含めて聞いてみますと、交通系のカードもそうですし、

クレジットカードで日本は切符を買えないとお声があります。そういう中では、やはり先ほどリピーターというお話がございましたが、これを増やす意味でも、交通系のカード、またクレジットカードがもっと使えるような形のことをしていただけないかなという思いがございます。

少し調べましたら、国の交通政策基本計画では、平成32年度に使える都道府県をゼロにすると。一つの駅でも使えたら空白地帯ではないのです。これではちょっと。先ほどお話がございましたように、W i — F i は関西広域連合で大変積極的な取組をいただいておりますので、大変ありがたく思うのですが、やはり公共交通機関を使うときには、交通カードが使えるように、とりわけ今度の2021のワールドマスターズ、これにはスポーツツーリズムというお話もいただいておりますので、関西だけどこに行ってもこの交通カードが使えるといった形にしていいただいたら、観光振興にも、そしてまたリピーターを呼び込むのにも大変効果があるのではないかと思います、J Rさんに言いますと大変厳しい見解があるわけですが、何とか広域連合でも積極的なお取組をいただきたいと思っております。以上です。

○事務局　　ありがとうございました。

○委員（山田啓二）　この問題は本当に深刻な問題だと受けとめています。先ほど申しましたように、午前中に広域連携DMO「関西観光本部」を設立する合意ができました。関西観光本部の事業の中で官民連携の一番特徴的な事業が、K A N S A I F r e e W i — F i と、関西ワンパスという関西のJ R、私鉄を自由に乗れる仕組みです。実はこの関西ワンパスはJ RのI C O C Aをベースにしていますので、まさにI C O C Aの適用範囲までしか行かない。ですから、今、お話がありましたように、京都の場合、例えば福知山とか舞鶴までは使うことができません。関西観光本部には運輸関係の機関も入っているところですし、ワンパスエリアを全体に広げていこうじゃないかという思いを持った組織でありますので、この関西観光本部を軸に、ぜひともI C O C Aのエリアを広げていく要請をしていきたい。そして、できるなら

ば、やはり関西ワールドマスターズゲームズまでにI C O C Aのエリアを広げて、競技会場のあるところはこの関西ワンパスで行けるような方策をお願いしていきたいと考えているところですので、またいろいろな面でお力添えをいただきたいと思います。

○事務局　ほかにご意見、どうぞ。

○大東市長（東坂浩一）　スポーツでインバウンドの話が続いているのですが、実はスポーツで関西から人口が流出している話をお聞きいただきたいと思っております。大阪府大東市の東坂と申しますが、本市に大阪桐蔭高校という高校がありまして、野球、サッカー、ラグビー、吹奏楽等、高校では非常に一流のレベルです。彼らは大学を選択するときに、ほとんど東京圏に向かいます。野球もラグビーもサッカーもそうです。今回、大学ラグビーで関西の大学が2校ベスト8に進んで大変うれしいことではございますが、スポーツの東京の強さ、関西の最近の弱さというのは目立っておりまして、アメリカンフットボール以外はほとんど東京のチームが独占し、駅伝なんか見る気もしないと、こんな状況でありますけれども、その中で、一旦、東京に進学した学生たちの8割以上が東京就職になります。帰ってくる2割のほとんどは家業を継ぐ学生たち。ですから、いわゆる就職をされる学生において、体育会を出られた学生たちは、ほとんどがその学校の関連やクラブの関連の企業に就職するという現実があります。ですから、この関西における大学でのスポーツ振興を図ることによって、学生を関西にとどめる、さらには全国から学生を関西に呼び込む、そしてその学生たちが卒業後、関西での雇用、そういったことにつながるということがあると思います。関西の学生、大学、高校に対して、スポーツの振興を関西の総力を挙げて図っていくこと、例えば合宿場を整備していくとか、環境整備でメッカや聖地だと言われることになれば、関西のスポーツが随分と底上げできると思います。

実業団もそうです。昔の日紡貝塚さんもそうですけれども、本市に三洋電機バドミントン部がございました。オグシオ時代というのは、選手も監督もコーチも関連を含めるとたくさんの方がおられました。廃部になって、強豪チームに選手が全部移っ



京の大学抑制という決議を行いました。それを受けて、地方創生本部のほうで、来年の夏までにその抜本策を取りまとめることになっています。ちょっと気になりますのは、全国市長会では、東京23区に遠慮してそれができなかった。その点はやっぱりきちんと市長会としても声を上げていただきたいです。全国知事会では東京の大学抑制は何とか決議に入れることができましたが、全国市長会では東京23区の区長さんの反対で潰れたようです。

スポーツの話でいうと、これから関西はスポーツに力を入れたらいいと思いますが、ひどいと思うのは、関東の大学しか出られない箱根駅伝が全国中継されている。あれはやはり関西からも声を上げて、せめて全国駅伝で上位に入賞した関西のチームが招待されるぐらいのことをやっていかないといけないと思います。

○事務局　ほかにご意見、ご質問等ありましたら、どうぞ。

○東大阪市長（野田義和）　近畿市長会東大阪市長の野田でございます。

まず一つは、この関西広域連合の取組というものが府県民にどれだけ理解されているか。多分、1,000人に聞かれても、999人は全く知らないと思います。これだけの取組をしているわけなので、ここはやはり住民の皆様にご存知いただくという努力をする必要があるのではないかと。当然、それは私どもももちろんありますが、やはり知っていただかなければ、我々の、今、やっていることというのが将来的にも続くのか、あるいは本来の広域連合ということにつながっていくのかどうか、若干、不安感のようなものを持ちますので、ぜひともPR、広報、周知、そういったことをお願い申し上げたいと同時に、私ども基礎自治体に対しても何かそういう一つのコンテンツがあれば、我々も当然市民に対する広報媒体、例えば本市の場合は紙媒体もありますし、ケーブルテレビも本市は15万世帯入れてますので、あるいは当然SNS等もございますので、ぜひともそういった取組をお願いしたいと思っております。

二点目は、スポーツツーリズム、ラグビーのワールドカップを何度も取り上げていただきましてありがとうございます。私どもの花園と神戸の御崎運動公園の2カ所ご

ざいますけれども、例えば花園と京都、奈良、和歌山、もちろん全域もそうですけれども、観光とか、たくさんの方がお越しになります。この27日から高校ラグビー大会もあります。今の感じでいくと、例年よりまた少しお客様が増えるかなと思います。そういった関西のいいところに訪問してもらえる、何かそういうまさにコンテンツというようなものがあれば、もっと我々もできる範囲で情報発信もしていけるかと思えます。手前勝手なことを申し上げれば、本市のラグビー場は歩いて10分あれば、駅から観客席まで入っていけますし、本市からは駅もたくさんありますし、京都の祇園まではバスで50分、直通バスも出ていますので、そういった意味では、ぜひとも私どもでつukれないようなそういう関西のいいところに行けるようなものがあれば、当然、これはまた関西のそれぞれの地域の中でうまく何か工夫、アレンジできるようなものがつくっていければいいのかなと思います。

もう一つは、いろいろ意見が出ることは承知しておりますけれども、私ども、中小企業の町、ものづくりの町、関西はとりわけ中小企業が多いわけですがけれども、エネルギーコストが大変、経営者の方が苦勞されています。今、また円安傾向にもなりつつあって、たしか航空会社もサーチャージをとり始めるとか、また、エネルギーコストがこれで少し上がるのではないかと考えています。

私ども東大阪市、中小企業都市サミットということで、全国の中小企業の多い町で連携をしているのですが、実はそこで原子力発電所の安全性を確保されたものは早期の再開を行うようにという提案をしたのですが、なかなか全会一致にならず、国への要望の中にそのことは入れることができなかったのですが、現実としては、本当に中小企業経営者の方というのは、あらゆるコストダウンをして、節電とか節ガス、節水とかは限界までやられているのです。そこへエネルギーコストが上がってくるとなると、材料コストも若干上がってきています。非常に厳しいものがありますので、広域連合の中で、安全性を担保された原子力発電所については、速やかな再開ということを国に対しては明確に意思表示ということができないのだろうかという、

これは中小企業の町としては死活問題でございますので、そういったこともご検討いただければと思います。以上です。

○広域連合長（井戸敏三）　　広域連合が府県民に周知されていないのではないかと  
いうご指摘はずっとこの広域連合発足以来受けておりまして、いろんな形で広域連合  
が活躍できる場面をできるだけたくさんつくっていくこととあわせて、私たちのホー  
ムページでもっと動的なPRをしていかないといけない。やっていますよということだ  
けではなかなか理解していただけないので、どのようなPRをしていくのかというこ  
とはさらに工夫をしていきたいと思います。

あわせまして、東大阪をはじめとする市町村の持つておられる広報媒体などの活用  
もしっかり考えろというお申し出をいただきましたので、適切な時期と適切な事業に  
ついてぜひ掲載等をしていただきますようお願いをいたしますので、よろしくご協  
力をいただきましたらと思います。さらに我々も努力をしてまいります。

2番目のやはりスポーツの拠点、少ないとは言いながら、関西もたくさん持っている  
ので、それと連携をしながら、さらに周知徹底を図って、関西のスポーツの拠点づ  
くりとスポーツの振興に生かすべきだというご提案はまさにそのとおりで、生涯スポ  
ーツの祭典のワールドマスターズゲームズもそのような効果を持ち得るはずでありま  
すから、一体となりまして推進を図らせていただければと思っております。

3番目の問題は、関西広域連合としては要請を何回もしておりますけれども、再稼  
働はしないとか、再稼働反対といったことはしていません。常に安全性の確保をきち  
っとしろ、それからモニタリングなどの監視システムをきちっと運営できるようにし  
ろ、そしてその情報をきちっと私たちによこして、府県市民にもわたるように協力  
をしろ、これを三原則、ベースにして対応しております。

ただ、おっしゃいますように、賛成ですとまでは明言はしておりませんが、  
我々がそのような声明を何次かにわたってしているということは、裏を読んでいただ  
きますと十分理解していただけるのではないかと、このように思っております。

若干、温度差も私どもの中にもあるわけでありますが、その温度差を乗り越えて、今、申しましたような基本姿勢でいるんだということでご理解をいただきましたらと思います。

それは、市長さん、大阪市長会で打ち上げていただけたらいいでしょう。というのは、大阪は実を言うと電力の発電施設というのが、自家発は別としまして、基本的に持ってない消費府県の代表格でありますから、そういう意味でも一つのムーブメントを起こすきっかけにはなり得るのではないかと思います。済みません、つまらないことまで提案しました。

○事務局　ほかにご意見ございませんでしょうか。

○南丹市長（佐々木稔納）　実は、私、2年4カ月前にドクターヘリで命を助けていただきました。今回、来年度の予算を拝見させていただきますと、大変充実をしていただいて、大変うれしく存じております。

こういった中で、私ども、過疎地にありましては救命救急、これが大変大きな課題でございます。こういった意味におきましては、機数を増やしていただく、また、スタッフを増やしていただくというのは大変ありがたく存じますし、また、とりわけ夜間とか荒天時にも飛んでもらえたらなという思いもございます。まさに厳しい救急救命という場面に私ども過疎地は直面いたしておりますので、さらに充実をしていただきますことをお願い申し上げる次第でございます。まずは経験者として厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

○委員（飯泉嘉門）　まずはドクターヘリで無事命を取りとめられたということで何よりだと思います。

今も佐々木市長さんからもお話しいただきましたように、この関西広域連合、最初は平成23年度に日本海側を守る3府県ヘリ、ここからスタートを切りまして、大阪のドクターヘリ、そして徳島のドクターヘリ、さらには兵庫のドクターヘリと、これらを順次関西広域連合へ移管をしてまいりました。そして、さらには昨年4月に京滋

ヘリが導入されて、和歌山のドクターヘリと合わせて6機体制と。これで30分以内、救命救急効果が高いという、これを関西広域連合管内全域で対応することが可能となりました。

そして、先ほどもご説明を申し上げましたように、平成29年度中には鳥取県のドクターヘリが入り、今度は7機体制ということになります。これによって、例えば熊本の地震のときには6機体制だったわけではありますが、緊急に西側の守り、つまり3府県ヘリと兵庫県のドクターヘリ、徳島のドクターヘリが熊本へ向かいました。そして直ちに現地で活動を行う。その間、留守となった西部を、今度は東側の3機のドクターヘリが守ると。二重、三重のセーフティーネット、こうしたものを行えるように、6機体制になったがゆえにできるようになりました。

さらに、これに加えて、実は隣接地域とのドクターヘリとの共同運航、連携というものも、今、進めてきております。

例えば平成25年5月からは、島根県のドクターヘリが鳥取県へと。また、26年7月には徳島県のドクターヘリと高知県のドクターヘリが相互乗り入れをと。もちろんこのときの協定の締結者は、高知の尾崎知事さんと関西広域連合の井戸連合長さんという形をとらせていただいております。

また、さらに今年の4月には、和歌山県のドクターヘリと三重県のドクターヘリ、こちらが相互応援の協定を結ぶという形で、こうした形でどんどん隣接県のところのドクターヘリとの運航を強めてきているところです。もちろん平成29年度までには鳥取県のドクターヘリが入るということであれば、当然のことながら、さらに中国地方との連携強化、これが図られるようになるということになります。

また、さらにこれに加えて、消防防災ヘリの活用、あるいは自衛隊ヘリの活用、こうしたものも、今、関西広域連合では進めているところです。

ちなみに消防防災ヘリは管内で12機ございます。このうちドクターヘリ的機能を持って運航しているものが、兵庫県と神戸市で共同運航する2機、そして鳥取県の1機、

徳島県の1機、合わせて4機。またさらに自衛隊のヘリとの連携といった点については、既に徳島県のほうで海自、陸自ともに行っておりまして、既にドクターを乗せ患者の搬送を行うといった形についても6回の対応を行っています。特に夜間、有視界飛行というのがドクターヘリの特徴ということがありますので、夜間、特に海岸べり、離島の部分については海自のヘリを、そして陸地内については陸自のヘリをという形で対応しているところであります。

また、さらにこれを広げようという中で、今、運航時間、有視界ということはあるわけですが、大抵のところは8時半からということになっているところであります。

しかし、そうした中で、今、8時半ではなく、8時から日没までという形で、和歌山のドクターヘリ、そして徳島のドクターヘリが、従来から午前8時から日没までと。これに、実は今年の10月から兵庫県のドクターヘリにつきましても、秋冬期に限ってということではあるのですが、8時から運航を開始するという形をとっているところであります。

また、ドクターヘリ的機能というだけではなくて、患者の皆さん方を大量に搬送するといった観点では、消防防災ヘリが大変有効となるところであります。特に京都市の消防防災ヘリについては、傷病者の皆さん方の運搬は24時間体制で行っていただいているところであります。

今後とも、特にドクターたちを載せる場合に対しての安全・安心を第一とする形で、しかし夜間の対応、あるいはなるべく運航時間を長くしていく、また隣接県との対応、こうしたものも大いに広げていきたいと考えておりますので、ぜひまたどうぞよろしくお願ひ申し上げたいと存じます。

○事務局　それでは、予定しておりました時間が参りましたので、このあたりで終了とさせていただきますと思います。

本日の意見交換会の総括を兼ねまして、最後に井戸連合長より一言ご挨拶を申し上げます。

○広域連合長（井戸敏三）　今日は大変ざっくばらんで、しかも我々が課題としております事柄につきまして相互に意見交換ができて、共通の理解が得られたのではないかと思います。

特に関西を元気にしていくために、大学スポーツをもっと振興しろ、スポーツの拠点を活用しろ、あるいはスポーツの実業団なんかの振興をしろとか、具体の提案も頂戴いたしました。

一方で、認知度が余りまだ足りないぞという厳しいご指摘もいただきました。

ともあれ、私どもは府県と政令市が府県域を超えた広域連合として活動を展開しているわけでありますが、構成メンバーであります府県、政令市、及び、さらに基礎的自治体であります市町村と連携をとらせていただいて、共通の目標に向かって努力を重ねていくということが基本でございますので、これからも年に2回は少なくともこのような機会を設けさせていただきますので、その時々課題につきまして、今日のような意思疎通ができる、そのような会としてこれからも運用を図らせていただければありがたいと思っております。

今日は本当にご多用中のところ、このような機会を設けていただき、積極的なご発言を頂戴したことに感謝を申し上げ、今後とも、関西広域連合の活動にご協力とご支援をいただきますことをお願い申し上げます、最後の私からのお礼を兼ねたご挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局　それでは以上をもちまして、意見交換会を終了させていただきます。ありがとうございました。

閉会　午後3時00分